

(二)船場川 姫路競馬場 洪水調節池 だより

第11号
平成30年1月30日
兵庫県中播磨県民センター
姫路土木事務所

船場川の河川内で工事作業に着手しました！(分水施設工事)

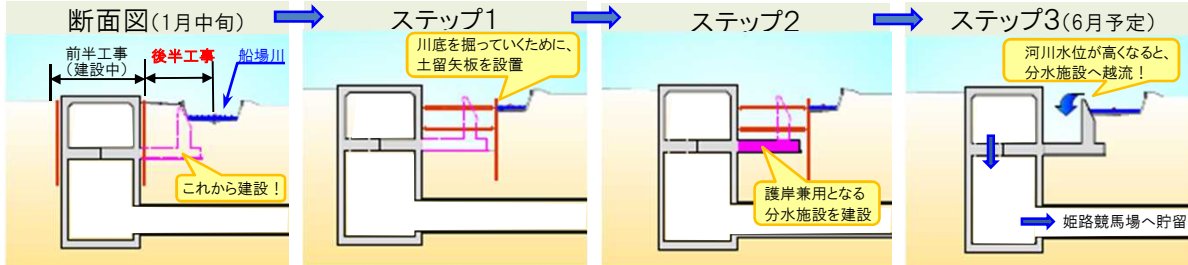
昨年6月末に工事着手した「分水施設工事」は、前半工事となる「川の中の作業が発生しない工事範囲」が進み、1月下旬から後半工事となる「川の中の作業が必要な工事範囲」に着手しています。

後半工事では、船場川左岸の既設護岸を取壊し、その場所へ洪水時に越流させるための分水施設(現場打鉄筋コンクリート構造物)を建設し、前半工事で建設した部分と連結し、一体化させます。

工事中は、河川の水が河川外へ流出しないように注意し、工事を進めていきます。



現場状況
(H30.1.18撮影)
河川内の工事作業に先立ち、工事境界部分へオレンジ色の仮締切り材を設置しているところです。今後、川底を掘っていくために、仮締切り材のすぐ横へ土留矢板を打設していく予定です。



姫路競馬場内ではドローンによる3次元測量等を活用して工事を進めていきます！(調節池整備工事)

兵庫県では、平成29年度からICT活用工事の導入を ● ICT活用工事とは… 試行しています。

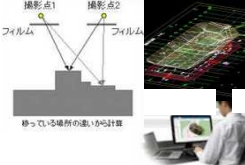
昨年12月末に着手した調節池整備工事もICT活用工事として、土砂掘削作業等を対象に、ドローンによる3次元測量、及びICT建設機械を活用し、「作業時間の短縮」、「施工品質の向上」、「作業安全性の向上」を目指して、効率的な工事進捗に努めています。

●ドローンとは？



人が乗ることなく、人の意志に従って飛行する無人航空機のことであり、通称として、ドローン(英: drone)と呼ばれています。最近では、安価で小さなドローンも増え、趣味でドローンの飛行や空撮を楽しむ人も増えています。

●3次元測量とは？



立体的なものをデータ化するために「3次元計測」を行う手法であり、得られたデータを、パソコンの専用ソフトで、立体的に高い精度で再現することができます。身近なところでは、3Dマップへの活用が挙げられます。



●ICT建設機械とは？



これなあに？ 今月の「工事現場から」

今回は、『建設分野におけるICTの普及』に向けた取組みについて、今の建設現場が抱えている課題と、将来目指す姿とを照らし合わせて紹介いたします。

地域の方々の安全・安心な生活環境の実現を目指し、我々土木建設業界が将来に渡って、持続的な社会基盤の整備を担っていくよう、本工事においても、「ドローンを使った3次元測量等」を実践することで、建設分野におけるICTの普及に取り組んでいきます。

建設現場が抱える課題

- ◆生産性向上が遅れている建設現場
特に土工事やコンクリート工事の現場では、これまでとはほぼ変わらず、多くの人手を要しており、生産性の向上が遅れている。
- ◆依然として多い建設現場の労働災害
全産業と比べて、2倍の死傷事故率【年間労働者の約0.5%(全産業では約0.25%)】。
- ◆予想される労働力不足
技能労働者約340万人のうち、約110万人の高齢者が今後10年間で離職することが想定。

将来目指す姿

- ◆一人一人の生産性を向上させ、企業の経営環境を改善。
- ◆建設現場に携わる人の賃金の水準の向上を図るなど魅力ある建設現場に。
- ◆死亡事故ゼロを目指し、安全性が飛躍的に向上。
- ◆「きつい、危険、きかない」から「給与、休暇、希望」を目指して。

取り組みの3本柱

- ◆ICTの全面的な活用
測量・設計から施工・検査、さらには維持管理・更新までの全てのプロセスにおいてICT技術を導入。
- ◆規格の標準化
寸法等の規格が標準化された部材の拡大。
- ◆施工時期の平準化
2か年予算の適正な設定等により、年間を通じた工事件数の平準化。

(出典: 近畿地方整備局「ICT活用工事の手引き(平成28年11月) i-Constructionの概要」からの抜粋)